

強い酒は火が付くけれど、弱い酒は心に火を付ける。

どこもかしこも桜が瞬いていて、果ては宴の席でも話の花が咲いている。

それでも——酒の席は無礼講とは言うけれど、苦手なのは苦手だったりするものだ。

「——蓬菜の葉を飲んで死ななくなった貴女は、本当に死なないのかしら？」

猫のようにするりと懐に入り込んで酒精アルコールをもって絡んできた彼女は、まるで咲き誇る一面の桜並木のような笑みを浮かべていた。

春を迎えた蕾が花開くように、ふわりと。

しかしその瞳は、心の底から笑ってはいなかった。

人に訊ねておいて、自分の中に既に答えを持っているような眼。長年生きてきた妹紅といえど、その天衣無縫の裏に隠された表情を読み取ることは出来ない。——天衣無縫というよりは、自由奔放かもしれない。視界の端では、自由奔放な主の為に従者が東奔西走している。健気なものだ。「さあ？ それは、死なない私への皮肉かい？」

彼女は妹紅を極端に嫌っている。それは、妹紅が死なな

いから——彼女の能力を以ってしても、死に誘うことが叶わないからだ。同時に妹紅も、彼女を嫌っているけれど。

そんな毛嫌いをおくびにも出さず、妹紅は杯を揺らしながら軽くあしらった。酒など久しく呑んでいなかった妹紅にとっては、主賓よりもまず酒の方が大切だった。

「皮肉も何も、私は気になったことを言ったまで」

「それはあの夜に解決してるだろう。おまけにあの剣士を使って何度も私を斬りやがって……冷酷非道にも程があるだろ。痛いんだぞ、一応」

「だって、貴女は死なないじゃない。なら、何をしたら許されるはず」

「待て待て、その理屈はおかしい」

「元よりおかしいのは、貴女の不老不死の方」

心底楽しそうに彼女はけらけらと笑っている。彼女にとってはこのぐらいの揶揄リップサービスなど舌先三寸なのだろうが、しかし何をどう反駁したところで、彼女は桜の花弁のようにひらりはらりとかわしてしまうから性質たちが悪い。どうにも腹の虫が収まらなくて、妹紅が忌々しく苦虫を噛み潰すと、その表情を期待していたと云わんばかりに彼女は顔に満面の笑顔を浮かべた。

——明らかな、挑発。

これに乗らなければ、負けだと思った。

そして、この挑発に乗ってしまったとしても負けだということも、はっきりと感じていた。

それでも。

後ろで慧音が見ていたとあっちゃあ、このままズカズカと引き下がるわけにもいかなかった。

だから。

「どうもお前さんは一度、私の炎で綺麗さっぱり成仏させてやった方がいいみたいだな？」

妹紅は彼女に向けて、指先に小さく炎を点した。

「——あら？　じゃあ、お願いしようかしら。それが出来るのならば」

その一言で、炭が一気に爆ぜるように、弥が上にも宴の席が盛り上がる。

「おっ、亡霊と不死の弾幕戦か？　私も混ぜろー！」と、伊吹萃香が。

「死なない奴同士が争っても意味ないじゃない……」と、博麗霊夢が。

「まあまあ、最近は何変解決ばかりだったからなー」と、霧雨魔理沙が。

「余興つてのも、たまには面白いんじゃないかしら」と、アリス・マーガトロイドが。

「あら、私は幽々子が戦うのなら興味があるわ……」と、八雲紫が。

「ゆ、幽々子様、幾ら余興と言えども不死が相手は」と、魂魄妖夢が。

「まあまあ妖夢……幽々子様なら、大丈夫だろうよ」と、八雲藍が。

「お互いに不死なんて、運命が弄れないから退屈よ」と、レミリア・スカーレットが。

「まあまあお嬢様……それにしてもあの二人が、ね」と、十六夜咲夜が。

「不死には水を、亡霊には………何がいいかしら」と、パチュリー・ノーレッジが。

「あら、あの妹紅が私以外と戦うなんて珍しいわね」と、蓬莱山輝夜が。

「あわわここが丸焼けになっちゃいますよ、師匠！」と、鈴仙・優曇華院・イナバが。

「あの亡霊ならば、軽く妹紅を往なせるでしょうね」と、八意永琳が。

「人外同士、私の幸せはどっちに味方をするのやら」と、因幡てゐるが。

「萃香が混ざるんなら、私の血も騒ぐつてもんだ！」と、星熊勇儀が。

「ふ、不死同士らなんて……流石幻想郷、恐ひれす」と、東風谷早苗（下戸）が。

「へえ……不死の人間なら、信仰が集まりそうねえ」と、八坂神奈子が。

「亡霊と不死の者！ やつぱり此処幻郷は楽しいねえ！」と、洩矢諏訪子が。

「明日の朝刊の一面は『亡霊対不死』で決定ですネ」と、射命丸文が。

「ほへー……竹林にそんな人間が住んでたんですね」と、犬走椀が。

「じゃあ文、ウチの新しいカメラで試し撮りしてよ」と、河城にとりが。

「死体が出ないんじゃないよあ、火車は盛り上がりませんよ」と、火焰猫燐が。

「私も混ざる！ 今こそ八咫鳥様の力を魅せる時！」と、霊鳥路空が。

「……どうして地上人は野蛮な輩ばかりなのですか」と、古明地ざとりが。

「人間も興味深いけど、不死はさらに興味深いわ！」と、古明地こいしが。

「ナズー、あの二人にはどんな関係があるのですか」と、寅丸星が。

「いやいやご主人様、そんな事私に訊かれても……」と、ナズーリンが。

「争いはいけません。人も妖怪も不死も、みな平等」と、聖白蓮が。

「私も混ぜなさいな」と、風見幽香が。

「まあ滑稽な組み合わせだねえ、不死同士なんて」と、小野塚小町が。

「BGMは何をご所望で？ 好きなの弾いちゃうよ」と、プリズムリバー三姉妹が。

「それはもちろん——『月まで届け、不死の煙』で」と、上白沢慧音が。

「私は、妹紅が勝つと信じているから——」